

氏名	藤 原 徹
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1280 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年 3 月31 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	腎移植患者における EAC ロゼット阻止試験を用いた Immune Complex 検出の試み
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 大森弘之 教授 太田善介

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ヒト同種腎移植においては、ドナーとレシピエント間で、種々の移植免疫反応が
おこり、その際に生じた Immune Complex (IC) はある一定の範囲をこえると組織
障害性を来し、臨床上移植腎の生着にとって重要な意味を持つ。その IC の測定方
法には種々の方法があるが、著者は Ezer らの EAC ロゼット阻止試験に準じて、腎
移植患者 25 例（死体腎 11, 生体腎 14）について血中 IC の検索を行った。まず、
患者血清を急性拒絶群、慢性拒絶群、腎機能良好群の 3 群に分け、それぞれに EAC
ロゼット阻止試験を行い比較検討したところ、ロゼット阻止活性は慢性拒絶群に有
意に高くみられた。次に慢性拒絶例について阻止率の推移を術後経過と共に観察し
たところ、臨床的に慢性拒絶期に一致して、阻止率の上昇がみられた。以上の事か
ら、慢性拒絶反応には、液性免疫による IC の関与が想定され、EAC ロゼット阻止
試験はその判定の一指標になると考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は腎移植に際して惹起される移植免疫反応について検討されたものである
が、ヒト同種腎移植後の慢性拒絶反応に際して液性免疫による Immune Complex の
関与について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。